

輝く光

南 豊

奨励者紹介〔みなみ・ゆたか〕

日本キリスト教団東灘教会牧師

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

(マタイによる福音書 5章13—16節)

塩と光の役割

先ほど、皆さんとお読みしました「地の塩、世の光」の教えは非常に有名な聖書箇所です。「あなたがたは地の塩である」の「地」は、私たちが生きるこの世界や世の中を、「塩」は料理などに使う塩を指します。塩分は人体にとって欠かすことのできない成分で、不足しますと最悪の場合、命が危険になります。また、塩は食材の味を引き立てると共に、防腐効果ももっており、漬物や干物などを作る際にも用いられます。「あなたがたは地の塩である」とは、私たちはこの世界が腐敗するのを防いだり、世界がより輝くために欠かせない存在であることを意味します。

続いてイエスは「あなたがたは世の光である」と言われます。先ほどと同様に「世」は、私たちが生きるこの世界や世の中を、「光」は太陽光線等を思い浮かべていただければ良いかと思います。先ほど、私たちの健康維持のためには塩分が欠かせないと申しあげましたが、光も私たちの健康に欠かせません。日光に当たることで体内に生成されるビタミンDはうつ病からガン予防までこなす万能薬だそうですし、記憶力や思考力といった脳の認知機能を活発にする作用もあるそうです。また、光は灯台のように暗闇を明るく照らし、時にはその熱で人を温める役割もあります。「あなたがたは世の光である」とは、私たちはこの世において光のような役割を果たす存在であることを意味します。

あなたがたは地の塩・世の光

もし、イエスに直接「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光である」と言われますと、私たちはとてもそんな者ではありません、と言わずにおれません。逆に、地の塩になりなさい、世の光となれるよう努力しなさいと言われる方が素直に受け入れやすいくらいです。しかし、イエスは私たちが私たちであるなら、それだけで地の塩、世の光となるとは言われていません。

13節の後半には、「塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである」とあります。塩が塩気を失うとは何を意

味するのでしょうか。現実的に考えれば塩が塩でなくなることはありません。しかし、これはたとえ話であり、塩が私たちが指すことを思いますと、その意味が見えてきます。今日お読みした聖書箇所直前の3～12節には八つの幸いが記されており、これはキリストを信じる者のあるべき姿を教えるものです。聖書は、神と人を愛し、神と人に仕えるよう私たちに教えますが、その姿勢を失い自分勝手な生き方をすることによって、私たちの塩気はなくなってしまう。決して塩の本質を失ってはならない、という警告の言葉がここに込められているのでしょう。

また、15節以下には「もし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家中のものすべてを照らすのである」とあります。もし火を升の下に置くとは何を意味するのでしょうか。ここで「升」と訳されているギリシャ語には「約8.7Lの容器」を意味する単語が用いられています。一体「約8.7Lの容器」を何に使うのかと思い悩んでおりました時、ある注解書に、ランプを消す時に息を吹きかけて消すと煙って臭いから、升をかぶせて酸素をなくすと煙ることなく火は消えるという一文に出会い、それだと思いました。現実的に考えればロウソクに火を点けたなら、すぐに升をかぶせて消すようなことはありませんが、先ほどと同様に、これはたとえ話ですから別の意味が込められています。それは、神様から与えられるこの世の塩や光の役割を前に尻込みし、それをなかったことにしてはならない、という警告の言葉がここに込められているのでしょう。

私たちはこれまでの人生経験から自分の力量をわきまえておりますので、もし火を升の下に置きたくなる気持ちもわからなくありません。ですが、この警告は何が何でも結果を出せと言うようなブラック企業の論理ではないように私は考えます。続けてイエスは「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」と言われますが、ここで「輝かしなさい」と訳されているギリシャ語は3人称単数への命令形という日本語や英語に存在しない不思議な文法で書かれています。これを無理やり日本語に置き換えれば「光は輝け」という不思議な訳になります。しかし、この訳は神が与えられた光の役割を的確に言い表しているように思えます。私たちは神様に与えられたもし火の光がより輝くためにはどうすれば良いかと考える必要がありません。私たちに与えられた光はそれ自体が光り輝くものであるからです。私たちが注意しなければならないのは、光が輝こうとしているのに、それに升をかぶせて消そうとするような邪魔をしない、ということです。私たちが光の邪魔をせず、光が存分に輝くなら人々は「天の父をあがめるようになる」と言われるのです。

地の塩・世の光となるとは

けれども、そうであればなおさら尻込みしたくなってしまう。「あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになる」ほどの働きをしているかと問われると、途端に自信が無くなってしまうからです。私たちが自分を地の塩、世の光とはとても言えないと思う理由もそこにあります。神様のために精一杯働きたいという思いはあっても、その結果が伴っていないという思いが脳裏に浮かびます。では、私たちの努力が実を結べば、私たちは地の塩、世の光となることができるのでしょうか。たとえば、私たちが世の人々が驚くほどの成果を上げ、この成果は神様のおかげだと言ってキリスト教ブームをもたらすことができたなら、地の塩、世の光となれたということでしょうか。あるいは、私たちがこの社会の不正を正すために立ち上がり、その訴えが次第に盛り上がって社会を変えることができたなら、地の塩、世の

光となれたということでしょうか。もちろん、こうした結果があるのにこしたことはないのですが、私たちの言葉や行いが周囲の人々により影響を与え、人々を明るく照らしていくという結果だけを追い求めるなら、「天の父をあがめるようになる」のではなく、私たち自身が尊敬され、あがめられる対象になりかねないように思うのです。では、イエスの求められる地の塩、世の光としての歩み、生き方はどういうものなのでしょうか。

先ほど申しあげましたように、「地の塩、世の光」の役割は直前の八つの幸いの教えを受けたものです。ですが、その一つひとつを見ますと、本当にこれが幸いなのかと疑問に思わずにいられません。たとえば、10節には「義のために迫害される人々は、幸いである」とありますが、迫害されるとは、周囲の人々から感謝されるのではなく批判や非難を浴びることを意味します。神様に従おうとする時、人々により影響を与えたり、明るくしたりするよりも、むしろ批判、非難、迫害を受けることが少なくありません。地の塩、世の光であることは、周囲の人々が、あなたがたのおかげでこの世に、この社会により味がついている、あなたがたのおかげでこの世は明るくなっているなどと認めてくれ、感謝してくれるとは限らないのです。

輝く光

それらを踏まえたと、「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光である」という言葉は実に意義深く思えます。先ほど申しあげましたように、塩分や太陽光線は、私たちの健康維持のためには欠かすことのできない要素ですが、私たちはそれを当たり前のものとして特別なものと思っていません。生活する上で必須ではないダイヤモンドや金の方が価値があるとされる世の中において、塩や光は人知れず働き私たちの命を支えています。しかし、そんな塩や光の働きは必ずしも感謝されていません。近年の健康ブームにおいて塩分は目の敵にされています。また、光は肌のトラブルを引き起こす美容の大敵として避けられています。私たちが塩や光であれば、「やってられるか、勝手にしろ」と言いたくなるような扱いをされても、塩や光は黙々と私たちのために働いている。それは、多くの人から尊敬され、褒められる日の当たる働きとは正反対の、日陰で誰からも感謝されることのない、縁の下の力持ち的な働きであるのです。

神様が与えられる地の塩、世の光の役割とはそうしたものです。ですが、塩や光がそうであるように、地の塩、世の光の役割を為す存在がいなければ、この世界は正常に機能しないことも事実です。そうした働きが私たちには与えられているのです。そうしますと、先ほどとは真逆の意味で尻込みしたくなってしまいます。逆風の中においても進み続ける力は私たちにはないのではないか、そう思うからです。ですが、「私には力が足りない、私では役に立たない」という声を今日の聖書箇所は明確に否定しております。私たちに与えられている主の光は私たちの能力や頑張りによって輝きの度合いが変わるものではなく、光自体が輝くものであること、私たちに求められるのは輝こうとする主の光の邪魔をしないことであることが記されていたからです。それは、仮に私たちの力量が自分のみならず周囲の人が認めるほどに拙いものであったとしても、私たちが主の御心に従うなら、自然と主の光は輝きを強め、周囲の人々は神様を崇めるようになることを意味します。

これから皆さんは、長い人生でさまざまな事柄に直面されると思いますが、どうか、折りに触れて「あなたがたは地の塩である」、「世の光である」との言葉を想い起していただきたいと願います。

こうした日々は本当に苦しく難しい歩みとなることでしょう。しかし、主はその難しい歩みに踏み出す私た

ちを祝福し、それを為し遂げる力をも与えてくださるに違いありません。

2017年10月25日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録